

People Design. Project

発行／就業力育成支援室 fukugan@biwako.shiga-u.ac.jp

「ひとびとの行動をデザインする」



Vol.1

2013.April



受講生募集中

プロジェクト科目

ピープル・デザイン・プロジェクト

デザインの力で、おしやれに世の中を変える。
他者に対する配慮、共存、共生への気づきがあり、
ハンディを解決する機能やサービスを生み出す。

NexTide VOLUTION



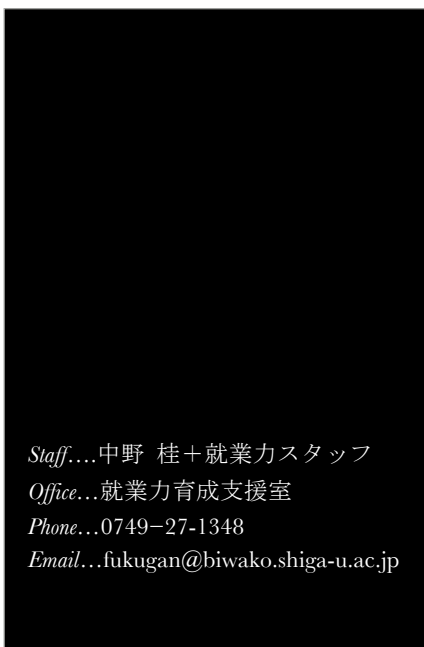
特別講師 | 須藤シンジ

1963年東京生まれ。大学卒業後、丸井に入社。宣伝、パイヤー、店次長などを歴任。次男が脳性麻痺で出生し、以来障害児の親として現行の福祉の世界の厳しさを実感。ボランティア活動等に参加しながら、自身が能動的に起こせる活動の切り口を模索。2002年にソーシャルプロジェクト、ネクスタイド・エヴォリューションを開始。従来型の福祉的なアプローチと一線を画す「PEOPLE DESIGN(ピープルデザイン)」という新たな概念を立ち上げ、障害の有無を問わずハイセンスに着こなせるアイテムや、障害者を街に呼び込む為の各種イベントをプロデュースしている。

日本では、車椅子の方が電車に乗るとき、駅員さんが車椅子専用の渡し板を持って手伝う風景が一般的ですが、これってバリアフリーと言えるのでしょうか。欧米では障がい者と健常者の垣根がほとんどなく、街でも普通に混在しています。車椅子のおばあさんがひとりで街に出てきて、バスの乗り降りや階段の上り下りなどでは、その場にいる人がサポートする風景がごく自然に見られます。つまり、本当のバリアとは、段差とかではなく、実はひとびとの心の中にあるということです。こうした心のバリアを取り去ることこそが、真のバリアフリーなのではないでしょうか。

須藤シンジさん（ピープルデザイン研究所代表）はそう考えて、障がい者が普通にまちなかにいて、健常者と混在する風景を作り出す仕組みを考えだしました。

例えば、障がい者が使いやすい機能をもった靴を、ヨーロッパの有名デザイナーとコラボして、とてもおしゃれな靴に仕上げました。それまでは履きやすい靴と言えばベルクロ（マジックテープ）の靴ぐらいしかなかった中で、おしゃれな靴を履いて街に出てもらおうという作戦です。しかも、そうした靴を銀座などで売ることによって、障がい者の人が普通にいる風景を作り出そうとした訳です。



「違いは、個性、ハンディは、可能性。」

また、プロサッカー選手にも協力してもらいながら、ブラインドサッカーの健常者への普及もおこなっています。ブラインドサッカーとは目隠しをしてするサッカーのことですが、子どもたちを含め、健常者にも楽しんでもらうことによって、視覚障がい者のためのスポーツという固定概念を取り払い、健常者と障がい者が混ざってできるスポーツにしようとしているのです。

さらに、音声ガイダンス付きの映画の普及にも努めています。視覚障がい者の方は、音声ガイダンスを特別なレシーバーを使って受信しながら映画を鑑賞するシステムです。音声ガイダンス付き映画は、従来は、古典的作品を公民館などで視覚障がい者のために上映するか、あるいは、DVD 化されたものを自宅で鑑賞することが多かったのですが、できるだけ最新の映画を、それも普通のまちなかの映画館で上映することによって、例えば健常者の彼氏と、視覚障がい者の彼女がともに映画を楽しめるようにしようというものです。

ピープルデザインの考え方は、必ずしも障がい者に対するものだけではありません。高齢者や子ども、そして小さな子どもを連れた父親や母親なども、暮らしの中でいろいろな障壁に出くわしています。それを、デザインの力を借りながら、ソフトにおしゃれに解決していこうというのがこのプロジェクトです。

このプロジェクト科目では、ピープルデザインの提唱者である須藤シンジさんに月に1回程度指導をしてもらいながら、春学期の間に、社会を変える製品もしくはビジネスモデルを作ることを目標にします。

いよいよ春学期、月曜 4 限開講

さあ、あなたはどんなモノ・コトを生み出しますか

募集人数 | 15 名程度

申込み〆切 | 4月12日（金）午後4時

自己推薦文（400 字程度）を添えて就業力育成支援室まで。

※応募者多数の場合は選考。授業開始は4月16日より。

Staff....中野 桂+就業力スタッフ
Office...就業力育成支援室
Phone...0749-27-1348
Email...fukugan@biwako.shiga-u.ac.jp